

大学名	宇都宮大学		
University	UTSUNOMIYA UNIVERSITY		
学部/研究科	工学研究科		
Faculty/Department	GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING		
研究指導者	三橋 伸夫	職名	教授
Research Advisor	MITSUHASHI NOBUO	Position	PROFESSOR
帰国留学生	ゲン スアン チュン		
Former International Student	Nguyen Xuan Trung		
派遣期間	平成27年9月10日 ~平成27年9月19日 (10日間)		
Period of Stay	10days (Sep., 10, 2015 - Sep., 19, 2015)		

<帰国留学生プロフィール/Profile>

国籍	ベトナム
Nationality	Viet Nam
所属機関	ダナン科学技術大学・講師
Affiliation	DANANG UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY ・ LECTURER
現在の職名	講師
Position	LECTURER
研究分野	農村計画
Major Field	RURAL PLANNING



農村住宅設計ワークショップ講評
Review on workshop of rural design drawing

<研究指導者からの報告/Research Advisor Report>

①研究指導概要 / Outline of Research Guidance

当該帰国留学生が修士論文としてまとめた大都市ダナン近郊農村の住宅の平面型と住まい方の推移に関する研究テーマについて今後も継続的に調査研究し、今後の伝統文化の尊重、自然環境の保全と現代的生活の両立をめざすベトナムにおける農村計画の一助となるべく指導を行った。具体的には、今後の継続的な調査研究の進め方、研究方法・分析方法についてアドバイスを行うとともに、在籍大学における学生の教育指導とも絡めて、学生が参加する近郊農村のフィールドワークと農村住宅設計課題のグループワークショップを当該帰国留学生とともに指導した。また、当該農村計画の分野について、国内の他大学・研究機関の研究者と連携して研究分野としていっそうの発展を図るよう奮起を促した。このため、在籍大学の国際交流担当の教員、在籍学部教員を含めて、宇都宮大学との学術交流ならびに学生交流について意見交換を行い、積極的に進めることで双方が合意した。

②研究指導の成果 / Results of Research Guidance

ダナン市近郊農村を対象とする農村住宅の今後の調査研究の方法、分析方法について帰国留学生に対して指導を行い、また、当該留学生が指導する学生が参加する農村住宅設計ワークショップを共に指導した。指導に際しては、農村住宅を設計するにあたっての考慮すべき事項、具体的には伝統的農村住宅の歴史性への配慮、生活の現代化に対応した保健性、利便性および快適性を確保した住宅設備や住宅平面（間取り）への理解、洪水をはじめとするさまざまな自然環境的制約に適応し災害リスクを回避するための安全性に関する知恵の確認、附属舎、自家菜園および家畜飼養など屋敷まわりの農村生活に適したデザインの工夫、などについて項目整理を行った。こうした取組を通じて、当該帰国留学生が研究者として今後のベトナム農村住宅のあり方に関する視座をより明確にもつとともに、研究方法についてもより具体的に把握することができたと判断される。また、宇都宮大学工学研究科との学術交流、学生交流に関する意見交換を行い、国内外の研究者・学生と交流することで研究をよりいっそう進展させる必要性も認識できたと見受けられる。

③訪問大学等での学術交流 / Scholarly Exchanges Done at Universities Visited, etc.

[国際会議への参加]

訪問期間中、ダナン科学技術大学において国際研究会（Conference on Advanced Technology in Civil Engineering Towards Sustainable Development）が開催されたため、専門分野が関連することと帰国留学生が在籍する建築学部教員（Dr. Nguyen Anh Tuan先生）が学術発表を行うことから帰国留学生と共に参加し、基調講演および学術研究発表を視聴した。この際、帰国留学生は研究発表者に質問し討議を行った。また、基調講演者の一人である横浜国立大学の小長井一男教授と懇談し、情報交換を行った。

[一般学生を対象とした特別講義]

建築学部の学生（2年次～5年次）約25名および建築学部教職員数名の出席の下、ダナン科学技術大学会議室において、「Recent Main Earthquake Disasters and Those Recoveries in Japan」と題する講義を行った。阪神淡路大震災（1995年）、新潟県中越中地震（2004年）および東日本大震災（2011年）の近年に起こった3つの震災を取り上げ、各々の震災の特徴とその背景、復旧ならびに復興のプロセス、現実の復興成果や進捗状況、生じた諸問題とその解決などについて講じた。最後に、震災に限らず、ベトナムにおける自然災害一般に対する備えとして、ハザードマップ作成、地域防災計画の策定と防災訓練・防災教育の重要性、さらには自然再生エネルギーの開発などの必要性について言及した。終了後、出席者からの質疑を受け、わが国の震災後の状況について補足的に説明した。

次いで、同じく大学講義室において、建築学部学生（2年次～5年次）40名および建築学部教職員を対象に、「日本古建築概説」と題した講義を行った。これは大学側から要請されたテーマで、建築史を専門とはしていないため、古建築を神社、寺院、邸宅、城郭、庭園および離宮などにカテゴライズして、時代に即した建築技術や建築意匠の変遷、背景となる歴史的事象などを講じた。終了後、出席者から質疑を受け、特に寺院の附属古建築である五重塔の建築技術について補足的に説明した。終わりに際して、文化財としての古建築保存の必要性を述べた。

[情報交換、大学間交流協定に向けた意見交換など]

建築学部の複数教員（副学部長Dr. Nguyen Anh Tuan先生、都市デザイン専攻長Dr. Ngoc Hong Nguyen先生、および帰国留学生）との間で、双方の交流協定締結に向けた情報交換と意見交換を行った。建築学部は創立後3年と若く国際交流に積極的であり、今後の交流継続を要請された。さらに、大学の国際交流担当教員（Dr. Nguyen Dinh Lam先生）との間でも情報交換と意見交換を行い、教育研究分野に共通性が高いことから、交流に向けて積極的である感を得た。さらに、ダナン科学技術大学との交流協定締結のため来校していた前橋工科大学の星和彦学長、石川恒夫教授と懇談し、交流協定について情報交換を行った（18日）。

<帰国留学生からの報告/Former International Student Report>

①研究指導の成果 / Results of Research Guidance

ダナン市近郊農村を対象とする農村住宅の調査研究の方法、分析方法について研究し、学生が参加する農村住宅設計ワークショップを共に指導した。指導に際しては、農村住宅を設計するにあたっての考慮すべき事項、具体的には伝統的農村住宅の歴史性への配慮、生活の現代化に対応した保健性、利便性および快適性を確保した住宅設備や住宅平面（間取り）への理解、洪水をはじめとするさまざまな自然環境的制約に適応し災害リスクを回避するための安全性に関する知恵の確認、附属舎、自家菜園および家畜飼養など屋敷まわりの農村生活に適応したデザインの工夫、などについて項目整理を行った。

②今後の計画 / Further Research Plan

三橋教授から農村計画に関する研究方法、内容の指導を受けた。ダナン科学技術大学の学生はワークショップ、会議、講義に参加して色々な勉強ができ、充実した時間を過ごすことができた。ぜひ、これからも宜しく願いたい。宇都宮大学工学研究科との学術交流、学生交流を今後とも継続的に行い、国内外の研究者・学生と交流することで研究をよりいっそう進展させたい。

③本事業に対する意見・感想等 / Your general impression and opinion about the Follow-up Research Guidance

短い時間でしたが、指導教授と一緒に会議、ワークショップ、授業に参加して、色々な学識を勉強できた。いつも、ベトナムの研究者と日本の研究者の架け橋になりたいと思い、それが出来れば、ベトナムにとって大きな意味があり、日本の技術も世界に広げられるのではないかと心から希望している。



日本古建築概説の講義(ダナン科学技術大学)
Lecture on Japanese Historic Architecture



フエ市都市計画に関するナン博士との意見交換(フエ市都市計画
院)